連協道路ニュース

第 315 号

発行 横浜環状道路(圏央道)対策連絡協議会 事務局

(創刊 1988 .12.14)

Tel 090-4825-7174 http://renkyoueditor.web.fc2.com/

Mail: renkyoueditor@mail.goo.ne.jp

2015.12.06.

第 27 回統一パレード＆集会

恒例の統一パレード＆集会は本年も 11 月 23 日(月・祭)に盛大に開催されました。

今年は集会場を朝日平和台地区のたいら台公園に変更したために、本郷台駅からのＡコースは 1 Km 短縮され 30 分、神戸橋からのＢコースは 0.8Km 増加し 80 分の行進となり、計 150 名が参加しました。

強制収用事業認定に対しても、増々「高速道路は要らない」とのアピールが行われました。

(A コースのパレード)

来賓として「畑野君枝衆議院議員」、「かわじ民夫横浜市会議員」がＡコースを共にパレード行進して頂き、且つ、我々の運動への理解と支持・支援をアピールして頂きました。

友誼団体からは高尾 5 名、外環等東京 3 名、横浜環状西線地域 2 名、上郷開発関連、松平トランペター等、多くの方がパレードと集会に駆けつけ、集会では各地での運動の成果や留意点等をアピールして頂きました。

全参加者は 188 名、全員で「不要不急の無駄な横環南線は要らない！住民は怒っているんだ！」をシュプレヒコールし盛大な集会となりました。(事務局長　長谷川)

(全員でシュプレヒコール)

集会場設営うらばなし

(朝日平和台　松本昌司)

「白紙撤回を含む抜本的見直し」の旗を掲げて長い間闘ってきた運動の数々の科学的反対理由を強引に退け，ついに事業申請認可と言う暴挙に至った今年、統一パレードの継続挙行は特に意義がある。

その大事な集会場を朝日平和台が始めて引き受けることになり、「全力を挙げて取り組むべし」となった。

会場使用許可や消防署認可は問題なく取得し、各種備品の点検調達等、準備万端相整えた。

問題は当日の天気、21 日夜までの予報では「昼までは曇り、午後から雨」というもの。雨となれば集会場は自治会館となるが、果たして入りきれるか？靴はどうする？集会の後の懇親会会場設定切り替えは間に合うか？等、頭の痛い問題が山積。

幸いにも 22 日の栄区天気予報では当日は「午前午後ともに曇り」となって一安心。

予想外の作業は、公園のケヤキの落ち葉。これが結構大量で掃除が必要、しかも掃いているそばから降ってくる。遂に当日朝 6 時に三度目の清掃を実施してやっと間に合わせた。

皆様、ご協力を有難うございました。

道路全国連　第 41 回全国交流集会

「21 世紀の公共事業は人間が主人公のまちづくり」を合言葉に 11 月 7 日(土)・8 日(日)東京経済大学国分寺キャンパスで開催され 58 団体、延べ 153 人が参加した。

1 日目はチャーターバスによる現地視察会から始まった。東京駅を 12：30 に出発して中央環状線大橋ＪＣＴ、首都高 3 号線用賀 JCT を見てからから東京外環道の東名ＪＣＴ予定地の工事現場で降車見学した。

地下 40mの大深度を走る 6 車線の東京外郭環状道路と地上を高架で走っている東名高速を交差させるもので現在は地下部分の工事が進められている。用地も広大な大規模工事。一部からは古代の横穴墳墓が多数姿を現している。

（下記写真中央部黒い穴）

続いて同外環道中央ＪＣＴ予定地と都市計画道路「府中所沢線」の府中、国分寺現地などを視察してから会場の東京経済大学に入った。

交流集会「首都圏からの報告」16:30～18:15 では各地から、外環道関連等 7 件の報告があった。2 番目に比留間連協会長の報告があり、圏央道横浜環状南線の「土地収用法・事業認定阻止への取り組み」と題して一部本格工事が始まるなかで、公害調停や公共事業評価監視委員会への働きかけなどでねばり強い活動を続けている説明があった。

２日目は開会挨拶、基調報告に続き二件の記念講演があった。川村晃生慶応義塾大学名誉教授「交差する＜道路＞とリニア」と題して、リニア中央新幹線についての説明があった。

スピードは新幹線の２倍に満たないが、消費エネルギーは 3.5 倍、建設費も膨大、人口増加も見込めない中で必要なものなのか。そもそも時間の節約が私たち人類に真の幸福をもたらしてきたのか等の報告があった。

リニアに対しては、大深度トンネルによる環境変化、残土処理に伴う災害、強い変動磁界の慢性被爆による小児白血病リスク等を心配して、各地に反対住民運動団体が結成されている。

磯野弥生　東京経済大学教授「公共事業と住民参加　－オーフス条約から考える－」と題して公共事業は何故止まらないのか、参加の課題、日本の参加法制の実態、世界を見れば日本は時代遅れ、などの説明があった。

午後は「特別報告」として４件の成功例とも言える住民運動の報告があり、その後、「分散会」として４グループに分かれて自己紹介、意見交換、質疑応答などがあり各団体の生々しい苦労話等も聞くことができた。そして最後に全体会で「集会宣言」を採択して閉会。連協からは比留間会長他数名が参加した。　（環境部長　鈴木伸之）

事業継続のための評価委員会 再開！

先月の 314 号でお知らせした 10 月 28 日の事業評価監視委員会の続きが 11 月 27 日に開催された。各委員から出された疑問点と私たちの要請した質問書に事務局が答える報告書をもとに議論があった。

連協から８名が前回と同様委員会とは別室でのビデオ傍聴に参加した。家田委員長が最後のまとめに 3 年前の付帯意見「住民の理解をこの 3 年でどう得る努力をしたか」「大きな社会変化があったか」が事業評価のポイントだが「事業者の報告は満足できるものであり社会変化もないのでより一層努力して事業を進めるように」と事業継続を宣言して終了した。

実態を知り得ない委員に事務局からの都合のよい報告書での身内の儀式に過ぎずまさに事業評価推進委員会の風情であり傍聴者は大変に落胆した。私達の質問書には十分に答えておらず今後、現在行われている質問回答会議で徹底的に厳しく追及し「住民の理解が全く得られていないので工事は即刻中止すべきである」を突き付けていく。　（会長　比留間）

対外活動報告

11/04 神奈川県用地課長に対し上郷公田線事業認定に係る抗議書（意義申立）を提出
11/10 同上に対する県用地課長からの回答（土地収用法の不服申立期間を過ぎているため意見としての回答）
11/07~08　道路全国連第 41 回全国交流集会への参加（国分寺、東京経済大学、5 名）
11/23 第 27 回統一パレード＆集会の開催
11/25 事業評価監視委員会(第 2 回目)議事傍聴(於:さいたま新都心、8 名出席)
12/02 事業者との質問・回答の開催（於:朝日平和台自治会館）